

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2025年11・12・26年1月号

編集発行人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 中村 信博

発行所

日本クリスチャン・アカデミー

京都市左京区一乗寺竹ノ内町2-3

075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第640号

絶望郷などと訳されるドイツピアを描き、予言の書とも言われるアトウッド著『侍女の物語』では、侍女は買い物に行く時に一人で外出はできず、必ず二人で行くことが義務付けられています。気を許して話し合うこともありませぬ。二人で行動するのは、互いに監視するようになっているからです。

日本国憲法は、「集会、結社及び言論、出版」の自由を保障し、検閲を禁じ、通信の秘密を侵してはならないと定めています。けれども、残念ながら歴史上この自由はしばしば奪われてきました。

日本においては、一九四一年十二月に「言論、出版、集会、結社等臨時取締法」が公布されました。日米開戦から十一日後のことです。

共に集い、学び、語り合い、文書を書き表すことは、当たり前のことではなく、時には命がけのことでした。特に、戦争を推進する者たちにとって、これらは弾圧すべき対象でした。

「ラーゲリより愛を込めて」という映画をテレビで視聴し、その原作、辺見じゅん著

『収容所（ラーゲリ）から来た遺書』を読みました。生存者たちへの聞き取りをもとに書かれた実話です。日本の敗戦後、旧満州にいた日本人約六〇万人がソビエト連邦の俘虜となり、約一二〇〇箇所の収容所に入れられ、強制労働につかされました。

そのようななかで山本幡男さんは仲間を声かけます。「勉強会でも始めませんか。」少人数で始めた勉強会は、収容所を移された後は俳句の会

の長時間の重労働、黒パンとわずかなスープという乏しい食事、蚕棚と呼ばれる宿舎、厳しい環境により、多くの人が倒れていきます。

「集い、学び、話し合う」



前財団評議員

横野 朝彦

へと続きました。

文字の書かれた紙を持って、さるだけでスパイ扱いされ、さらに同じ俘虜たちからの密告に用心する状況下、当局に禁止されても秘密裏に開催されました。

「収容所から来た遺書」という題は、重い病にかかられた山本さんが家族一人ひとり宛に書かれた遺書を、仲間たち

が手分けして記憶し、俘虜からの解放後に家族に届けたことからきています。山本さん自筆の遺書はソ連兵に没収されたのでした。

ナチス支配下、チェコ北部にあるテレジン収容所では、フリードル・ディッカーさんが、子どもたちに密かに絵画を教えていました。現在、収容所跡に、またプラハのシナゴ

ンさんは、勉強会を呼びかけ、多くの学びが行われました。これらの集いは、絶望し命を落とす人たちがいる中になりながら、彼らの生きる力となり、希望を与えてくれるものとなりました。

わたしたちが今集い、学び、話し合う機会を持つことができるのは、どれほど貴重なことでしょうか。そしてこの自由は手放してはならないものです。

クリスチャン・アカデミーは、第二次世界大戦への反省として始められました。わたしたちがおこなっている集い、学び、話し合いは、ただ知識を得るためだけでなく、大切基礎だと思えます。

（日本基督教団牧師）

関東活動センター

●2025年度 聖書を読む講座I（共催：早稲田奉仕園）

「LGBTQ+と教会 みんなで考えてみよう！」

講師 インマヌエル高津キリスト教会 牧師 藤本 満さん

2025年4月～2026年3月 第2火曜（8・12月休会）

Zoomによるオンライン講座

関東活動センターでは、一々ていく講座となつています。年を通して学びと話し合いを深めることのできる連続講座の形で、さまざまな講座が開講されています。

特に「LGBTQ+」を主題においていた講座は、2024年度の「LGBTQ+とキリスト教 性と生の正義に向けての聖書の読み直し（山口里子）」と「LGBTQ+と教会 壁を造らない共同体をめざして（中村吉基）」に続き、今年「LGBTQ+と聖書 みんなで考えてみよう！（藤本 満）」が開講されています。今回のこの講座は、いわゆる「福音派」の立場から、LGBTQ+に関して聖書を通して見つけ



藤本 満 講師

その点から今回の講座は、LGBTQ+について聖書学的なアカデミックな領域から見つめる視点と、教会や牧会、信仰的な立場から見つめる視点のちょうど中間に位置するものではないかと感じていま

す。

参加者にも、「これからのキリスト教のあり方」や「これからの教会のあり方」を見つめて、新たに学びたいという思いをもった教会の役員や牧師たち、職場や学校、地域といった生活の中で、『聖書』にはLGBTQ+がどのように書かれているのかを知りたいという方が多くおられます。

11月の講座では、イエスの福音とLGBTQ+について話し合われ、1月には当事者の視点から読まれる特別講演

浦上 充

（関東活動センター運営委員長）

●2025年度 宗教対話Ⅲ

「福嶋揚と共にハンス・キュンクを読む」

講師・チューター 神学者 福嶋 揚さん

2025年5月～2026年2月 第4金曜（8・12月休会）

Zoomによるオンライン

◇参加者寄稿

講座に参加して

西間木 公孝



福嶋 揚 講師

ハンス・キュンクの『イエスをこの本を翻訳した福嶋揚さんと一緒に読む機会が与えられ、うれしいです。ハンス・キュンクはカトリックの神学者。2003年頃、庭野平和財団の賞を受賞した時、日本クリスチャン・アカデミー関東活動センターの所長だった大津健一さんからハンス・キュンクのことを教えてもら

ったことがあります。当時、キュンクの本を1冊、読んだことがありました。カトリックの神学者ということで、何となく、とっつきにくいイメージが自分の中にありました。しかし、今回、カール・バルトやユンゲル・モルトマンのよき紹介者である福嶋揚さんがこの本の翻訳者として、一緒に読んでくださるといふので参加しました。この本はキュンクが半世紀前に著した『キリスト者であること』の中から21世紀の読者に向けて必要なところを抽出し、改訂したものです。この本を読んで最初に思ったのは、プロテスタント神学とそう変わらないという点と、古臭くないという点でした。キュンクが読者に伝えたいことは、すべてのキリスト者にとって共通であるキリスト、すなわちイエスを明確にするということだと思います。イエスについて、さまざまな視点から見つめ直し、わたしたちは「なぜキリスト者であるべきなのか？」を問いかけます。

会は毎回、1章ごと進めます。参加者が読んで思ったことや疑問点を発表し、それを

受けて福嶋さんが質問に答えて、キュンクの生涯の話もえ、解説をします。また、福嶋度々出ます。難しい内容の本さんの話に対して、参加者ですが、この会に出た後、毎回、この本の理解を深められ福嶋さんが答えるという形式を取っています。「福音と世界」誌に、ハンス・キュンクの生涯を福嶋さんが連載中なの

関西セミナーハウス活動センター

●2025年度「開発教育セミナー」第1回

共催(公財)京都市国際交流協会

「開発教育入門セミナー」

「人権・平和・環境などの地球的課題を参加型で学ぼう」

講師

国際教育研究会 Global net Shiga

大槻一彦さん

関西セミナーハウス活動センター 開発教育研究会

佐藤友紀さん、岡本領子さん、織田雪江さん、友前尚子さん

2025年9月22日(日) 会場 京都市国際交流会館(KOKOKA)

初夏の恒例「開発教育入門セミナー」が6月22日(日)、35名の参加者を迎えて京都市国際交流会館で開催された。

午前中は、3月に改訂第7版が発行された『世界がもし100人の村だったら』(開発教育協会)を使い、世界の変化を過去・現在・未来の時間軸でとらえ、現状の背景や未来への想いを共有するワークショップを行った。「米国の大学生活で感じている格差と富の配分のワークがリンクした」「富

の配分を目の前にして、人から奪いたいと思った。こうした感情が戦争につながるのかもしれない」「現実を知らないことが分断を生むと感じた」といった感想が共有された。午後はオリジナル教材『このとば』で世界を探検しよう』を実施した。世界の文字ポスターを見比べることから始まり、多言語放送を用いた音あてクイズや宮古語の歌の紹介、「日本語を廃して英語に切り替えるとしたら」の問いかけ、実際の事例から言語の課

題を考える活動へと続いた。参加者からは、「音の響きを感じる活動があつて楽しみながら考えることができた」、「言葉を奪うことの暴力性を感じた」、「外国にルーツを持つ子どもたちとの関わりを見直す機会になった」などの感想が寄せられた。いろいろな活動を通して、少数言語の消滅と文化・アイデンティティの喪失、日本社会の多言語化に関する課題を体験的に学び、様々な問いかけから参加者の中に言語に関する深まりと広がりが生まれた。



御子のご降誕をお祝いし、新年のご挨拶を申し上げます。

新しい年を迎えるにあたり、すべてのいのちが戦争と災害によって犠牲になることなく、神によって創造された世界がより美しい秩序と調和を保つことができまうと祈ります。そして、この祈りのために微力を尽くします。

みなさまの上に、飼い葉桶にねむる幼子の平和と希望が豊かにとお祈り申し上げます。

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 中村 信博

評議員 井上 依子 理事 浦上 充

古賀 博 神崎 清一

小原 克博 神田 健次

新野(藤浪)敦子 柴田 賢司

増田 琴 村上 みか

山本 俊正 山本 知恵

和田 喜彦 監事 黒岩 裕二

柳井 一朗 (五十音順)

関東活動センター 関東運営委員長 浦上 充

関西セミナーハウス活動センター 所長代行 古賀 博

関西運営委員長 小久保 正

所長 神崎 清一

所長代理 後宮 嗣

関西セミナーハウス 経営委員長 神崎 清一

館長 森口 明洋

本部事務局 事務局長 神崎 清一

財団職員一同

・現在「はなしあい」は季刊であるため、少し早めのご挨拶をさせていただきます。



●2025年度修学院フォーラム「福祉」第1回
「宗教はエコか？〜神道、仏教、キリスト教からの問いかけ」

講師 法然院 貫主 梶田 真章さん

関西学院大学法学部教授・宗教主事 大宮 有博さん
大本本部総務課広報渉外・ 乾 光孝さん
宗教協力担当

2025年6月28日(土)〜29日(日)
会場 法然院 関西セミナーハウス

フォーラム「宗教はエコか？」は、木村護郎クリストフ上智大学教授が発案し、関西セミナーハウス活動センター運営委員会の協力を得て開催された。最初は法然院に集合した。法然院本堂では、法然院第31代貫主梶田真章師より「共に

を説明。仏教、キリスト教、神道における自然に対する考え方や、宗教がその考え方をどのように実践しているのかについて、啓発し、議論を喚起することを目的とした24時間のプログラム。法然院から関西セミナーハウスへマイクロバスで移動し、到着再開の前に、木村教授の案内で、ハウスに隣接する曼殊院の境内にある、おそらく世界で唯一の菌類培養塔である菌塚を見学した。この訪問は、このプログラム

奏者早野純子さんによって準備された瞑想的な礼拝で始まった。共に讃美歌を歌い、聖句を共に読み、そして早野さんによる故フランススコ教皇の別れの手紙の朗読とハープの演奏に耳を傾けることで、私たちが取り巻く世界との間に別次元の交わりが生まれた。午前中は、神職の乾光孝氏が「神道、教派神道から見る神道とエコロジー」について講演。乾氏は、亀岡市でプラスチック汚染を減らすキャンペーンを展開し、その結果、亀岡市は核となるテーマが意識された。



たが、残念ながら5月に他界された鎌田東二先生への追悼を兼ねたものとなった。

再集合後は、大宮有博教授が、「環境問題の視点から聖書を読む」と題し、律法における動物の屠殺に関する処方について講演。そこに見られる循環性とサステナビリティの考え方は、キリスト教徒にとっても重要な教訓であると話した。

夕方には、上智大学の学生が鎮守の森／教会の土地管理および樹木葬／森林葬について、日独を比較する2つのグループプレゼンテーションを行った。日曜の朝は、バストラールハーブ

関西セミナーハウス報告

●カブトムシまつり 2025

2025年6月29日(日)

会場 関西セミナーハウス



子どもたちに大人気のカブトムシまつりが、今年も開催され、120余名の参加がありました。

森口明洋関西セミナーハウス館長が、カブトムシ飼育の困りごとになんでも答えるQ&Aコーナーは好評でした。子どもたちの連れてきた自慢のカブトムシの「木登りレース!」、「館長杯カブトムシBIG1グランプリ」



では、子どもたちも真剣勝負。これから飼育したい子どもたちには、ハウスで育てたカブトムシのペア（オスとメス）のプレゼントもありました。

開催に合わせて、ロビーでは、お抹茶・茶道体験も行われました。





講師の大谷隆夫さんは、長い間、関西労働者伝道委員会の専従者として、釜ヶ崎での活動をしてこられた。関西学院大学神学部在学中に、釜ヶ崎に関わるようになり、越冬支援の活動をされたこと。関西労働者伝道委員会の専従として働くことになり、釜ヶ崎日雇い労働者のSさんの生活保護裁判に関わったこと。釜ヶ崎日雇い労働者の住民票削除に反対しての活動を懸命に行なったこと。個人史をお話しての釜ヶ崎の話をお聞きすることができた。また「多様性」という言葉がよく語られる私たちの世の中であって、これまでの釜ヶ崎での活動、

最近の釜ヶ崎の様子を振り返る時に、その目標にはまだまだ「道遠し」という思いであること。どのようにすれば、この目標に少しでも近づけるだろうかとの思いをもちつつ、いまも釜ヶ崎での働きを行なっているとのことだった。社会を変えたいという思いの中、このように接するところが正しいとか、こうすればうまくいくというようなことを、私たちは知りたいという思いに囚われることがある。しかし安易な答えを導き出すのではなく、共に話し合い、共に考えるということが、とても大切なことだと思わされた講演であった。



金城美幸さんは通算4年間のエルサレムに滞在し、研究してきた経験を持つ。

はじめに、パレスチナの歴史は日本の植民地化・戦後の植民地住民への制度的な追放と共通することから、自分引き寄せて学ぶ視点が提案された。イスラエルは飢餓を意図的に作り出して武器にしていること、日本はイスラエルの攻撃型ドローンを購入し、年金をイスラエル国債等へ投資していることを通して、当事者性を認識して実態と背景を考える大切さを実感した。

続いて、オスマン帝国下のイスラーム世界では、アラビア語を話す多くの住民と他の言語を母語とする人々、多く

●2025年度修学院フォーラム「福祉」第2回
「釜ヶ崎をとおしてみえる私たちの社会」
講師 日本基督教団摂津富田教会牧師、関西労働者伝道委員会委員長 大谷 隆夫さん
2025年7月12日(土)
会場 関西セミナーハウスとZoomによるオンライン

●2025年度「開発教育セミナー」第2回
「パレスチナから「平和」を考える」
「私たちは欧米中心の認識を乗り越えられるか」
講師 名古屋学院大学講師 金城 美幸さん
2025年9月13日(土)～14日(日)
会場 関西セミナーハウス

後援プログラム

エキジューニカル・ネットワーク(E-net) 第6回協議会

～日本におけるエキジューニカル運動の課題と展望～

主催：エキジューニカル・ネットワーク

2025年8月28日(木)～29日(金) 会場 関西セミナーハウス

「日本におけるエキジューニカル運動の推進および研究」を目的に、2014年に発足したエキジューニカル・ネットワークの協議会・総会(2年毎)が、開催された。基調講演に、辛承民(シンスンミン)氏(韓国基督教社会問題研究院院長、WCC-CCIA 委員)が招かれ、2日目「現場からの問いかけ」と題したシンポジウムでは、京都東九条、大阪生野地域、釜ヶ崎各地域からの報告がなされた。午後は総会が開かれた。延べ48名が参加した。



最後に、問題解決の活動を写真で示し、様々なカテゴリーに分類した。金城さんは、支

のムスリムとその他の人々、多様な民族が共存していたことを学んだ。シオニズムが生まれ、ヨーロッパの植民地主義を做った暴力が極限化し、パレスチナに持ち込まれた。「問題の根源は宗教対立・民族対立」は本質から逸脱している。

援と連帯に分類し、前者としてフェアトレード等のパレスチナ経済の支援、NGOへの寄付等を挙げ、後者は連帯活動を通して政府・自治体、企業、消費者に働きかけ、変革を促すものとし、例として※BDS運動を取り上げた。社会の変革とともに、私たち自身の変革も問うものだと考える。参加者からは、分からないことは多いが、知らないままではいけないと今回知ったことの違いは大きい等の発言があり、学ぶ機会を提供する開発教育の役割を再確認した。

※パレスチナ市民の呼びかけに応え、イスラエルに対し、ボイコット、投資撤退、経済制裁を推進する非暴力運動

プログラム案内

◆関東活動センター

■2025年度 聖書を読む講座I (共催:早稲田奉仕團)

「LGBTQ+と聖書」みんなで考えてみよう! 講師:藤本 満さん(インマヌエル高津キリスト教会 牧師)

日時:4月~2026年3月、第2火曜(8月、12月休会)19:30~21:00

参加費:全10回10,000円、学生5,000円 方法:Zoomによるオンライン講座

■2025年度 宗教対話I

読書会「キリスト教と文学」 講師:柴崎 聰さん(詩人、日本聖書神学校講師)

日時:4月~2026年3月、第3火曜(8、12月休会)14:00~15:30

参加費:1,000円/回

前号の訂正とお詫び

前号の紙面の記載に一部誤りがありました。以下の通り訂正し、お詫びを申し上げます。

P5 1~2段タイトル部分 誤)「福祉」第2回 正)「福祉」第3回 誤)会場 関西セミナーハウス

同 3~4段タイトル部分 誤)~31日(月・祝) 正)~31日(月)

P8 賛助会・寄付金報告 誤)鳥井 潔(様) 正)鳥井 清司(様) 誤)熊谷 文昭(様) 正)熊谷 文郎(様)

財団本部 HP 関東活動センター HP 関西セミナーハウス HP KSH 活動センター HP

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー 代表理事 中村 信博 本部事務局 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23 TEL 075-711-2147 FAX 075-701-5256 関東活動センター 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 日本キリスト教会館 1F TEL 03-3207-6198 E-mail :info@academy-tokyo.com 郵便振替 00190-7-109437 関西セミナーハウス 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23 TEL 075-711-2115 FAX 075-701-5256 E-mail :info@kansai-seminarhouse.com 関西セミナーハウス活動センター 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23 TEL 075-711-2117 FAX 075-701-5256 E-mail :office@academy-kansai.org 郵便振替 01020-1-5184

会場:関東活動センター会議室 (キリスト教会館1階16号)

■2025年度 宗教対話II 柏木義円公開講演会(共催プログラム) 「帝国日本と柏木義円」

(主催:柏木義円研究会) 講師:エミリ・アンダソンさん(全米日系人博物館キュレーター)

日時:11月29日(土)14:00~16:30 参加費:無料

方法:Zoomによるオンライン開催 ※講演は日本語で行われます。

■2025年度 宗教対話III 福嶋揚と共にハンス・キュンクを読む 講師:福嶋 揚さん(神学者)

日時:5月~2026年2月、第4金曜(8月、12月休会)16:30~18:00

参加費:全8回10,000円、学生8,000円 方法:Zoomによるオンライン講座

■2025年度 話し方ワークショップ 「さらに豊かな礼拝のために ことばを届けるトレーニング」

講師:友野富美子さん(日本キリスト教団深川教会牧師)

日時:5月~2026年3月、第3金曜(8月休会)19:00~20:30

参加費:各回1,500円/回 会場:日本キリスト教団東中野教会

◆関西セミナーハウス

■2025年度秋のオープンハウス

日時:11月24日(月・休)10:00~16:00

入場無料、狂言公演(茂山千三郎さん)、野点席、弁当販売 他

◆関西セミナーハウス活動センター

■2025年度開発教育セミナー[対面開催] 第5回「日本とコリアの過去・現在・未来 ~共に生きる隣人として出会いなおす~」

講師:太田 修さん(同志社大学グローバルスタディーズ研究科教員)

日時:12月20日(土)16:00~21日(日)12:00

参加費:13,500円(1泊2食、宿泊税込) 会場:関西セミナーハウス

■2025年度修学院フォーラム「福祉」 第3回「共に生きる社会を目指し~東九条マダンに託す願い~」

講師:朴 実さん(音楽家) 日時:2026年1月17日(土)13:30~16:00

参加費:2,000円 学生500円 方法:会場関西セミナーハウスとZoom併用

■2025年度 修学院フォーラム「社会」

第3回「新たな戦前No! 一琉球を戦場にははいけない」

講師:金井 創さん(日本基督教団佐敷教会牧師)

日時:2026年2月14日(土)13:30~16:00

参加費:2,000円 学生500円 方法:会場関西セミナーハウスとZoom併用

関西セミナーハウス 紅葉シーズン限定 個人宿泊プラン 2025年11月1日(土)~11月30日(日)→フロントまで

賛助会費・寄付金報告

2025年7月1日~9月30日(順不同・敬称略)

◆関東活動センター

賛助会費

石川 憲彦 上林 順一郎 古賀 博 大鹿 康廣 星野 宗吾

寄付

石川 憲彦 日本基督教団早稲田教会 日本YWCA 坂口 みどり 石橋 光朗 竹中 百合子 増田 博

神学生プログラム寄付

島田 恒 川北 かおり 原 誠

◆関西セミナーハウス

寄付

神崎 清一 柴田 賢司 中村 信博 林 律 長谷川 義紘 株式会社ワンアップ・ジョブ 株式会社三原工務店 代表取締役 北迫義人

全国本田労働組合連合会

中村泰洋園 諫早 道子 竹田 美和 今若 京子 岩崎 順子 ダイキン工業労働組合 株式会社田中工務店 高の原カウンセリング研究所 森口 克洋 船坂 孝江 株式会社新経営サービス 林 喜右衛門 木村 護郎クリストフ

奈良 睦子

横野 朝彦 株式会社藤木工務店京都支店 牛尾 宣夫 武藤 高司 山本 俊正 藤田 美和子 和田野 勢津子 宮地 紀子 京都桃山アシユラム 浅沼 弘一

◆関西セミナーハウス活動センター

株式会社ワンアップ・ジョブ 賛助会費 奈倉 道隆 シュベネマン大島借美

川北 かおり 松田 光代 吉中 尚子 岩坂 二規・泰子 喜多村 やよい 宇野 稔 上條 美代子 都木 かおり 丸山 まり子 湖月 美和 南 和子 伊藤 威知郎 青木 真知子

寄付

京都みぎわキリスト教会 小野田 照代 後宮 嗣 桜井 希 柳井 一朗 大谷 隆夫 川北 かおり 喜多村 やよい 福田 為謙 鳥井 清司 伊藤 威知郎 募金箱

以上、感謝を持って ご報告申し上げます。